

学位被授与者氏名	堀 秀暢 (ほり ひでのぶ)
論文題目	ルイス・キャロルの現実 ―目眩、変容、アイデンティティー―
論文審査結果の要旨	<p>二つのアリス作品に見られるノンセンス、パロディーと言った言葉遊びや、登場人物の大きさや形の変容といった眩惑感覚を分析し、ルイス・キャロルが児童文学という形を取りながら、現実感覚へ揺さぶりをかける仕掛けについて論じている。イギリス 19 世紀は理性中心主義の時代であり、秩序、分割不可分(individual)にして不変の自己、あるいは普遍的現実認識が信じられた時代であるが、本論文は、ルイス・キャロルの作品をそのような時代精神に対する一つの挑戦であると見ている。しかし、それは時代のロゴセントリズムへの正面から批判ではなく、論理のずらし、パロディー、不条理、遊び感覚による現実感覚の混乱という形を取っているとしている。趣旨としては、興味深いものであるが、援用しているカイヨワの理論やジュディス・バトラーの理論が十分に論文とかみ合っていない部分が多々見られる。着目点としては面白いけれども、まだまだ十分に説得力のある論の展開となっているとは言えない。しかしながら、修士論文として合格のレベルには達している。</p> <p>平成 25 年 2 月 21 日に、北九州市立大学北方キャンパス本館 E-313 教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(比較文化)として十分な内容であると判定した。</p>